

『須永文庫資料集 明治 21・22 年 須永元日記』の翻刻などを担当した広沢有久と申します。佐野市郷土博物館に保管されている「須永文庫」は、日本に亡命してきた韓国朝鮮人らの貴重な資料を大量に保管し、近代日韓関係史研究の宝庫と言えます。日本国内での知名度はまだ十分とは言えませんが、近年、韓国の研究者からの関心も高まり、研究の機運が高まっています。このコーナーでは、『明治 21・22 年 須永元日記』刊行後に新たに分かったことや須永と彼が支援した亡命者らについての情報などを随時皆さんに提供し、今後の研究の発展に資することを目指しています。須永の遺志を継ぎ、佐野から情報を発信していきたいと思います。

【本沢七十郎】

まずは『明治 21・22 年 須永元日記』明治 21 年 1 月 17 日 1 行目「木沢七十郎」を「本沢七十郎」に修正します。

これに伴い、新たに「本沢七十郎」の注釈をつけます。

「千葉県土族。須永の漢詩文集『輟斎詩稿』によると、須永らが明治 18 年 12 月頃設立を計画した学び舎「行餘舎」の教師に招かれ、英学を教えた。翌 19 年 9 月、生徒らに惜しまれながら辞職する。23 年 1 月出版の『孝経忠経集註』の翻刻発行者。雅号は鴻南か。」

2 月 1 日 3 行目、6 月 24 日 1 行目も「木（本カ）沢」とあったのを「本沢」と

します。いずれもパッと見は「木沢」ですが、全体の文脈などから「本沢」と判断しました。

また、明治22年4月16日2行目「□南」を「鴻南」とし、5月2日2行目「鳴南」を「鴻南」に修正します。

校名の「行餘」は中国の古典『論語』学而篇の一節「行有餘力、則以学文」から名付けたと思われます。読み下せば「行ひて餘（余）力有れば、則ち以て文を学ぶ」。

当時、『論語』は多くの人に読まれていたので、全国に同名の学校がいくつか作られました。

この行餘舎が発展解消したのか、詳細は不明ですが、佐野英学校が開校し、20年1月に式典が行われました。『下野新聞』は1月12日付紙面で次のように報じています。

「安蘇郡佐野英学校は須永平（1字空白、重）郎津久井（ママ）平左衛門等諸氏の発企に（1字空白）客年設立せしものなるも未だ其開校式を執行せざりしが去る七日愈々同式を宝龍寺に於て挙げられたり」

『輟斎詩稿』では「開講之典」が1月8日にあったとしています。1月17日、須永は東京に遊学へ出ます。

【菅盛波】

続いて2月29日1行目「関盛渡」を「関（ママ、菅カ）盛渡」とし、4月17日2行目「菅守渡」を「菅守（ママ、盛カ）渡」と修正します。つまり、「菅盛渡」が正しいらしいと判断しました。須永は1字目を「かん」と聞き、2字目を「もり」と聞きながら、漢字でどう書くかは確認しなかったのかも知れません。今後、注釈をつけることも検討しています。

【横浜開港記念日】

続いて4月12日14行目「征(カ)」を「証(カ)」とし、6月2日3行目「開落」を「開港」に修正します。6月2日は横浜の開港記念日で、毎年記念式典が催されています。日記には、須永が横浜に出かけ「以当開港三十年、仮為祭礼祝之花車屋数十本、頗繁麗」と書かれています。

ちなみに佐野にはかつて彦根藩の飛び地がありました。今も佐野市と滋賀県彦根市は親善都市提携を結び、交流を続けています。一方、幕末の横浜開港に果たした旧藩主・井伊直弼の功績を称え、旧彦根藩士らは横浜市で鉄道山を購入し、公園を整備して開港50年に当たる明治42年には直弼の銅像を建てました。その後、公園の敷地と銅像は横浜市に寄付されました。鉄道山は今は「掃部山（かもんやま）」と呼ばれていますが、これは直弼の官職「掃部頭（かもんのかみ）」に由来します。

幕末に彦根藩の家老を務めた岡本黄石は須永の漢詩の師匠で、日記にも頻出し

ます。

【弄雲】

6月4日1行目「弄（カ）雲」の（カ）を取ります。

これに注釈をつけ、「1月14日に初出の村田誠治の雅号。」とします。

【その他の修正等】

明治21年7月9日4行目「宜与此。不可無競争之覚悟」の「。」を取ります。

「宜しく此れと競争の覚悟無かるべからず」と読み下せるのではないかと判断しました。

明治22年5月25日11行目「榎本為之謀榎本諾之」の5字目に「、」を挿入し、

「榎本為之謀、榎本諾之」とします。

9月29日4行目「放言（カ）」は、文脈からは「贅」と書こうとした可能性もありますが、字が違うのでさらに検討を続けます。

【余談】

本沢の注釈に登場する『孝経忠経集註』は奥付に興味を持ちました。

「大朝鮮開国四百九十九年

正月 於大日本東京出版

明治二十三年一月廿三日印刷

全 年一月廿七日出生」とあります。

なぜわざわざ「大朝鮮開国四百九十九年」としたのでしょ。別途書いてみた

と思います。また、注釈もさらに追加していきます。ご期待ください。

2024 年 2 月 18 日 広沢有久

須永文庫資料研究室のアドレスは <https://sano-haku.com/sunaga-bunko/>